

風景に心奪われ「波千鳥」書いた川端康成

絆の証し 後世へ

九重の自然を守る会（嶋田裕雄会長）は21日、「川端康成文学碑」の建立40周年碑前祭を開いた。九重町田野の碑前には、川端康成の養女の夫で東京大学名誉教授の川端香男里さん（80）＝神奈川県＝や地域住民ら約20人が集まり、町ゆかりの文豪をしのんだ。



碑前祭に参加した（左から）高田恵子さん、川端香男里名誉教授、高橋裕二郎副会長＝九重町田野

川端康成は「伊豆の踊子」や「雪国」などの著作があり、1968年には日本人で初めてノーベル文学賞を受賞した。52、53年には同町を訪れ、くじゅう連山

九重町

の風景などに心を奪われたことをきっかけに、「千羽鶴」の続編「波千鳥」を執筆した。地域住民らは九重町と川端康成の絆を残そうと、74年に文学碑を建てた。表面にはノーベル賞受賞後の記念講演で話した「雪月花の時最も友を思う」の詩、裏には「波千鳥」の一節が彫

「文学碑」建立40周年祝う

られている。碑前祭は20年ぶり。「絆を後世に残すため、今のうちに継承しておかなければ」と同会が企画した。

川端康成を九重町に誘った画家、故高田力蔵の次男の妻、高田恵子さん（65）＝東京都＝も出席。神事後、川端さんは「文化は人の記憶に残って初めて意味がある。式典を企画してもらい、ありがとうございます」とあいさつ。坂本和昭九重町長が「碑を建てた先人たちに感謝します」と謝辞を述べた。

同会の高橋裕二郎副会長は「川端康成先生が心を奪われたこの九重の景観を、私たちは守っていかなければいけないとあらためて感じた」と話した。

22日、同町田野の県九重青少年の家で、同会の総会があり、川端さんが「日本の美と川端文学について」と題して記念講演した。

(2014年6月23日朝刊9面)

九重の自然を守る会は、「川端康成文学碑」の建立40周年碑前祭を開きました。

①九重町と川端康成のつながりは何でしょう。

.....

.....

.....

.....

②川端康成のいろんな著作とその内容を調べてみよう。

.....

.....

.....

.....

③川端康成はノーベル文学賞を受賞しましたが、ほかの日本人のノーベル賞受賞者とその業績を調べてみよう。

.....

.....

.....

.....